

I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等

1. 建学の精神と基本理念

岐阜医療科学大学(以下「本学」という)は、昭和 40(1965)年、神野浅義理事長により創立された学校法人江南自動車高等整備学校(昭和 42(1967)年に神野学園として寄附行為の変更認可)を母体に、昭和 47(1972)年臨床検査技師養成所として指定を受け、翌年 4 月に国際医学総合技術学院を開校してその歴史が始まった。昭和 49(1974)年には診療放射線技師養成所の指定を受け、その後昭和 58(1983)年に岐阜医療技術短期大学(衛生技術学科・診療放射線技術学科)を開学、平成 3(1991)年には看護学科を開設して現在の基礎を築いた。この間にも、医学の進歩と相まって医療技術者の高学歴化が進み、時代の要請に応じるため、平成 18(2006)年、高度な医療技術者を育成する高等教育機関として本学を開学した。

本学の建学の精神は学校法人神野学園の建学の精神そのものである。神野学園の建学の精神は「優れた技術は、人に幸福をもたらし、誤れる技術は、人に災いをもたらす。技術は人が造るなり、故に技術者たる前に良き人間たれ」である。現在、神野学園には 3 つの技術者養成の学校(岐阜医療科学大学、中日本自動車短期大学、中日本航空専門学校)があり、この精神に基づき、各々の専門分野で人間性豊かな専門技術者の育成を進めている。

2. 目的と使命

本学は建学の精神に基づき、その目的を「学則」第 1 条に「教育基本法及び学校教育法に基づき、人間の尊重を基本として、豊かな人間性の涵養と保健医療に関する科学分野の教育研究を行い、学術文化の向上に寄与するとともに、地域社会において広く活躍できる人材を育成することを目的とする。」と定めている。

医療技術者には、今後、ますます多様化する社会や人間に対応していくため、医療施設や在宅での優れた医療活動はもちろんのこと、疾病予防や保健指導など、健常者を穏やかな生活に導くためにも、幅広くかつ高度な知識と最先端の技術を理解する力、人間愛に基づく実践力が要求されており、本学はこのような医療技術者を育成する。

また、研究活動では医療界及び社会の変革は急速であり、その変革、発展に寄与できる研究課程に取り組み、優れた研究成果を挙げることにより、真理の探究と知の創造に寄与する。更に、種々の社会活動に参画して、大学が保有する知的、物的資源を活用することにより、地域を中心とする社会の発展に寄与する。

3. 本学の個性と特色

建学の精神「技術者たる前に良き人間たれ」に基盤を置き、人間性が豊かで高度な専門能力を有する医療従事者を育成する。そのため本学では、「教育目標」として建学の精神に示されている「人間性」に加え、グローバル化する社会の中で、外国人の患者や医療スタッフとのコミュニケーション、外国語の資料を読解する必要性が増える中での「国際性」、専門外の知識技術まで理解を深めることで自己の能力を高め、かつチーム医療という環境の下、相互理解を深めるための「学際性」を身に付けさせることを「教育目標」に下記のような、全人的な教育を行い今後の社会に貢献する、心豊かな信頼される人材

育成を目指している。

また、きめ細やかな教育、学生指導によって入学者それぞれに合わせた教育付加価値及び人間性の育成を行なっている。

- (1)入学予定者に対し「基礎科目」(数学・物理・化学・生物・国語・英語)のオリジナルテキストを配布し、入学前の課題とした。また、入学直後に「基礎学力診断テスト」を行い、平成 22(2010)年度までは本テストの結果及び希望者を対象として衛生技術学科は数学・生物、放射線技術学科は数学、看護学科は国語・生物の補習授業を実施した。平成 23(2011)年度からは、全学科とも「基礎分野」のカリキュラムに「基礎数学」「基礎物理学」「基礎化学」「基礎生物学」を選択科目として配し、「基礎学力診断テスト」の結果を参考に履修指導を行っている。また、国語は新たに「アカデミック技法」として、全学科の必修科目としている。
- (2)入学後保健科学部として 1 泊 2 日の新入生研修会(交流会)を行い、学生間、教員学生間、卒業生とのコミュニケーションを行うと共に、将来目指す分野の仕事の内容について認識を深める。
- (3)各学科各学年を 2 クラスに分け、担任を複数付け、入学後の面談、3 ヶ月後の中間試験の結果における学生の大学教育に対する初期対応、生活様式の変化への対応、その後学習、生活、精神面等についての状況把握と各種助言・支援活動を行う。
- (4)保護者懇談会を 2 年次と 4 年次に対し 4 月に実施し、それぞれ学生の専門教育が始まった段階での対応についてと、3 年間の実績から最終学年への個々の対応について情報交換を行う。
- (5)本学は二学期制をとり、学期終了後の試験成績に担任がコメントを記し、本人と保護者に送付する。担任は保護者からの種々の質問についての窓口となる。
- (6)就職については、2 年次からマナー、試験対策、面接対策等について講習会、模擬試験、模擬面接等を実施し、目的分野への就職支援を行なう。
- (7)学生の科目についての質問に対しては、ガイダンス等で教員に積極的に質問をするよう、また教員がその姿勢で在る旨を話し、また教員も個別指導の重要性を認識し行動している。
- (8)学生情報を事務局各課で一元的に共有できる学務システムを平成 22(2010)年度より導入した。これにより、入学資料請求やオープンキャンパス参加者情報に始まり、入学試験受験者情報、入学者情報、在学中の学生情報、就職情報に至るまで一貫管理が可能になっている。
- (9)学務システムの導入に合わせ、学生と教員が授業科目毎に Web を通じて双方向に学習できる本学独自のポータルサイトを平成 22(2010)年度より開設した。授業支援の他に、授業における各種希望調査、授業アンケート等にも活用が始まり大きな効果をあげている。また、「お知らせ」は携帯メールにも配信されることから、学生への連絡ツールとしても活用されている。
- (10)各学科の会議は月一回以上行われ、学生の状況について情報交換が行なわれ、担任に加えて、教科担当者からも情報提供され、学科教員が実情を知って学生の指導に同一方向性を持って当たっている。
- (11)学生相談室を設け、専任の臨床心理士を配し、相談に応じ、担任と共に学生の修学への

支援を行なう。

- (12)医療現場場面での英会話能力の向上を目指すため、医療現場に必要な英語を聴く力と話す力を育成する「英語Ⅴ」、「英語Ⅵ」を基礎としてさらに幅広く医療、福祉、健康の場面を想定したロールプレイを繰り返す「英語Ⅶ」を開講している。

なお、平成 22(2010)年度にはカリキュラムの変更申請を行い、「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」及び「韓国語」「ポルトガル語」を平成 23(2011)年度から新たに開講する。

- (13)国際性を養うため、平成 23(2011)年 3 月 9 日～3 月 22 日(14 日間)の日程で、ハワイ短期留学(ハワイ大学システムズ カピオラニコミュニティーカレッジ)研修旅行を行った。(参加 41 人)また、平成 21(2009)年度には 8 日間の日程でヨーロッパ研修旅行を行っており(参加 18 人)、今後もこの研修旅行と短期留学を毎年度に交替で実施する計画である。

- (14)近隣地域との連携を深め、地域への貢献活動を充実する活動を順次拡大している。平成 20(2008)年度より本学が所在する関市との協働事業で「せき健康の郷づくり事業」を行っており、市内の住民の健康状態を改善するため本学の「生涯教育委員会」が中心となり、市内大型スーパー等の会場で来場者に対し、血圧測定、骨密度測定、血管年齢測定等の各種検査を行っている。平成 22(2010)年度は 6 回実施し、約 1,400 人の来場があった。

- (15)前身校の国際医学総合学院 12 年、岐阜医療技術短期大学 26 年から引き継ぐ建学の精神に基づき教育を展開し、学生を輩出した過去の教育姿勢と実績を大切にし、新たな 4 年制大学として教育研究の場に踏み出した現在、さらに人間性に幅と深みを加え、社会に貢献する学生の育成そして研究成果による社会への貢献を目指す姿勢を強くしていく活動を行う。

建学の精神に基づき、38 年の教育研究の歴史を有する前身校では、真摯な教育姿勢と丁寧な学生指導によって優秀な学生を輩出してきた。このことが評価され、例年全国各地の病院をはじめとして、関連分野(公務員、医療福祉施設、検査センター、製薬会社、医療機器メーカー等)にも就職し、優れた業務実績を挙げてきたところである。岐阜医療科学大学では、これらの教育活動の成果を基盤として、さらに 4 年制大学の研究活動を伴う中で、深い学問と専門知識・技能の教授を行い、更に高潔な人格の人材を育成、輩出することで、社会から望まれる人材の供給を可能とする大学として行く。